

【概要版】大阪湾港湾の基本構想 ～スマートベイの実現を目指して～

大阪湾港湾と取り巻く背景

平成17年の前基本構想「関西シリコンベイ構想」策定から10年、平成21年のベイエリアのあるべき姿を示した「グリーンベイ・大阪湾」策定から6年が経過し、その間**様々な社会情勢が変化**してきた。例えば、

- 人口減少、高齢化の急激な進行、これに伴う労働人口の減少
- 大阪湾港湾に立地する産業構造の転換
- 東アジア、東南アジア諸国の経済成長に伴う世界的な物流システムの変化
- 世界的なクルーズ需要の拡大
- ICTの進展と拡大
- 広域処分場の受入完了に伴う次期処分場整備の要望
- 頻発する自然災害 等



これらの情勢変化に対し、さらに概ね10年後においても**社会、経済、環境、防災**など様々な面からの要請等に応えられる**港湾の実現**に向け、大阪湾港湾にとって今後新たな方向性を打ち出す必要が生じた。

大阪湾港湾の基本構想の構成

I. はじめに

1. 新たな大阪湾港湾の基本構想の策定にあたって
2. 大阪湾を取り巻く情勢の変化
3. 「スマートベイ構想」の基本的な考え方



II. 大阪湾を取り巻く現状と課題

1. 産業・貿易・物流
2. 文化・交流・暮らし
3. 環境・エネルギー
4. 安全・安心



III. 未来の大阪湾港湾 ～スマートベイの実現を目指して～

1. 大阪湾の目指すべき将来像
2. スマートベイの実現に向けた取組
 - (1) 持続的な発展を支える社会を構築するための取組 (Sustainable Development)
 - (2) 世界とつながるための取組 (Market Globalization)
 - (3) 最先端をリードするための取組 (Advanced Technology and Society)
 - (4) 成熟した地域社会を切り拓くための取組 (Regional Cultivation)
 - (5) 伝統を活かし育むための取組 (Traditional Industry and Culture)
3. スマートベイの実現に向けて

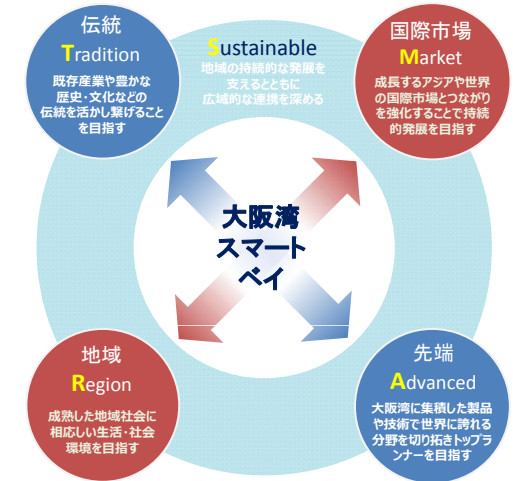
なぜスマートベイなのか？

世の中の潮流からみたスマート化の進展

- ICTの進展により、様々なものが連携・補完し、全体的に最適となる周辺環境と調和した持続的な発展を可能となった
- 「かしこく」、「無駄なく」、「洗練された」、「連携」等いわゆる「スマート」が時代を拓くキーワードに

大阪湾を取り巻く現状と課題の整理から、課題解決に向けて導かれる方向性のキーワードとして

- 持 続 (Sustainable)
- 国際市場 (Market)
- 先 端 (Advance)
- 地 域 (Region)
- 伝 統 (Tradition)



スマートベイ実現のための主な取組事例

持続的な発展を支える社会を構築するための取組 (Sustainable Development)

- 経済活動を支えるためのさらなるインフラの充実
- 持続的な発展を支える循環型社会の形成に向けた取組の深化
- 自然災害に対する地域の安全・安心施策の推進

世界とつながるための取組 (Market Globalization)

- 成長著しいアジア諸国とのシームレス化
- 貿易構造の変化に適切に対応した施設の高度化
- クルーズ振興にむけた受入環境の向上

最先端をリードするための取組 (Advanced Technology and Society)

- 国際標準の港湾サービスの充実による港湾の国際競争力強化
- 新興経済国市場への展開を意識した産業支援のための物流システムの構築
- 世界的な低炭素社会実現の動きに対応するためのICT等の技術の活用

成熟した地域社会を切り拓くための取組 (Regional Cultivation)

- 成熟社会に即して既存ストックを「賢く使う」
- 多様な主体の連携に基づいた海域環境の改善・創生
- 地域間連携の強化

伝統を活かし育むための取組 (Traditional Industry and Culture)

- 大阪湾の伝統的産業の持続的な発展への支援
- 多様な文化や伝統の次世代継承と、魅力的な地域づくりへの貢献
- みななどに対する認知度や親しみを深める取組の推進